

琉球大学学術リポジトリ

宮古島で発見された甘蔗の新しい病気について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 俊一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19527

送つておられる農家の母性の榮養源として申方のない食品である。生産量も丁度自家消費に適しているから消費も簡単であるが、出過ぎて余剰乳が出た場合は、仔豚の育肥等に利用される。

山羊は一日に十五斤程度の草しか食べないからその管理は学童で十分である。搾乳は頸を保定する搾乳台を造つてやれば取扱が容易だし搾乳の方法も学校の農業科の先方が教えてやればのみこみは早いと思う。

乳用山羊の疾病に就いてであるが現在の処一番警戒を要するのは腰麻痺（腰脊髄系状虫症）である。戦後アメリカから大量の山羊が導入されたが、殆んど疾病に際れて増殖の实を挙げ得ずに現在に至つてゐる。その原因は色々あつたと思ふが腰麻痺による被害が甚大であつたように思う。この病氣は在米種や雜種にはあまり罹らないが、乳用種を冒すとは妙である。原因は



(福臨種畜牧場より輸入されたザーネン種)

牛の腹腔内に寄生する指状糸状虫（セタリア・ゲキタータ）の仔虫（ミクロフィラリア）といひ血液の中にいる。シナハマタラカ等の蚊類の媒介によつて山羊に移り、この幼虫が山羊の脳脊髄に寄生するため神経障害や運動障害を起すものだとわづらわれている。一般に乾燥地帯よりも低湿地帯に多く寄生する。発症時期は七月から十月にかけてが多い。今の別特効薬がなく極めて厄介な病氣であるが、初期にスバトニンの投薬は効果認められている。其他山羊舎を糸網等で防蚊設置すれば予防する事も可能ではある。

根本的には牛の指状糸状虫を駆除することだが、そこまでは簡単に手がのびない。これは累進繁殖をすることによつて遂に乳用化すれば腰麻痺に対する抵抗力が出きて、その被害も僅少に止め得ることも考えられる。

以上山羊の乳用化による利益について述べたのであるが、乳用化することによつて肉量が減少しはせんかという懸念もある

宮古で発見された

甘蔗の新しい病氣について

一、此の病氣にかゝつた甘蔗はどのよう形を委ねるかと言ふと大体次の三通りに分けることが出来る。

其一はきびの梢部が膨らむもので、恰もどうもろしの幼穂に似て一枚の葉鞘に包まれている。この部分を開くと、そこに沢山の芽生がある。其数はまちまちである。

成長点は完全に止まり蔗茎はこれ以上伸びない。芽生は枯れてゆくこともあり、又成長をつゞけてやがて包み（葉鞘）を破いて外部に現われるものもある。

後者は次ぎにのべる第二の型となる。

其二は蔗茎の頂端が蕾状になつたものである。即ち第一で説明

が、事實はむしろ肉量の増加をきたす。即ち改良することによつて体重は二乃至三倍に増加するため、雄のみを肉用に廻しても多くなるからである。なお現在の沖縄山羊の大半は純粋の在米種ではなく幾分とも改良の過程を経ているため、農家の努力次第では急速に目的が達成されると思われる。それと共に頸つなぎ式のあの監禁生活から早く解放して、山羊の習性に合致した広い乾燥した山羊舎に放し飼ひすることが望まれる。そうでない限りいかに改良に努力してみたところで大きな泌乳能力の高い山羊を作る事は困難だろう。

山羊の乳用性が叫ばれて既に久しいが、その推進母体がないためか、なかなか進捗をみせない。要は農家の自覚にある。今こそ乳用化推進へ官民一体となつて努力すべき絶好の機会である。その暇にはかならずや健康美にみちた楽しい農村生活が味わえるものと信ずる。

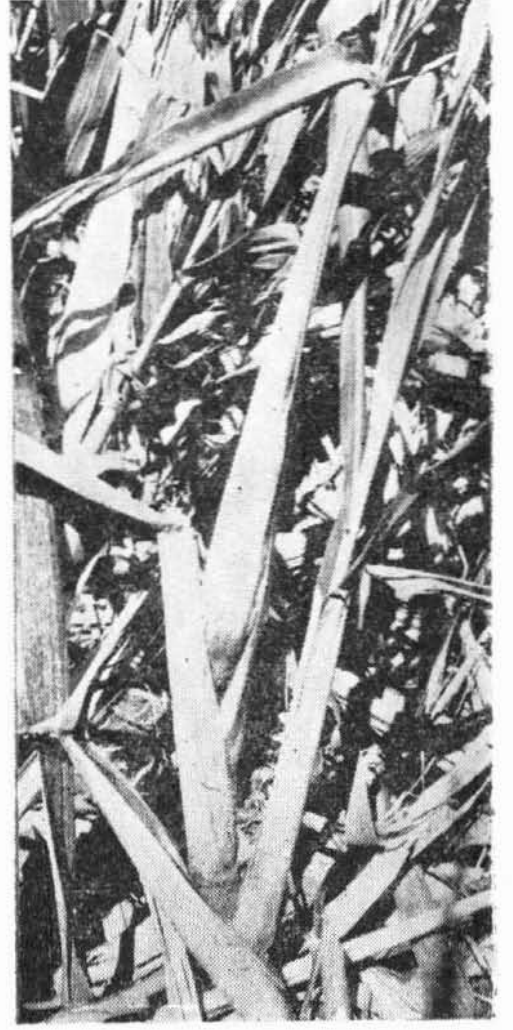
(渡嘉敷 綾 宝)

したように群生した芽生が主長をつゞけて包みを押し除け外に現われ出てきたもので、芽生の葉は少しねじれ気味のものもある。

其三は蔗茎の上方に近く、節が数個短縮して此部に多数の芽生を生ずる。芽生は其似芽生せないものもあり、亦芽生をつゞけてゆく場合もある。主幹はそのために弱さを售されるが枯れる事はない。其一では芽生が腐敗すると書いたが、これは二次的な原因によるものである。

注意すべきことは、同一苗から分けつた株は大方何れも病氣におかされてゐることである。また被害者のブリックスは健全

茎に比べて平均一、二度低下する。
 二、分布範囲は現在次の通りとなつてい
 る。
 △宮古一円
 (支庁経済課の報告は被
 害面積三十
 四町歩とな
 っている)



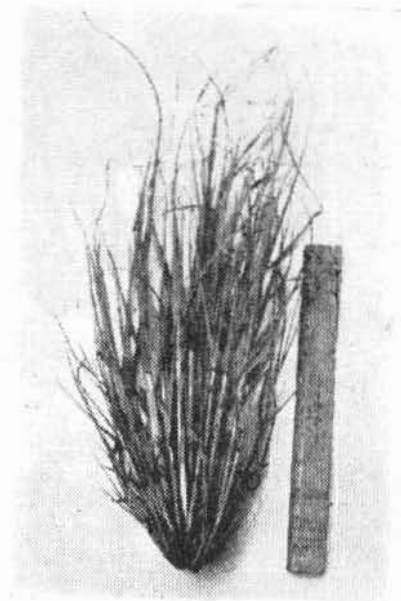
病徴 其一

△八重山の一部(竹富島に発生したとの報告がある)
 △本島南部を調査した結果によると、其一にのべた郡がくわ
 ずかに見出されるが、問題にする程でない。
 三、病徴は判つていない。ウイルス(細菌よりさらに小さい
 微生物)のようにもあるが確かでない。

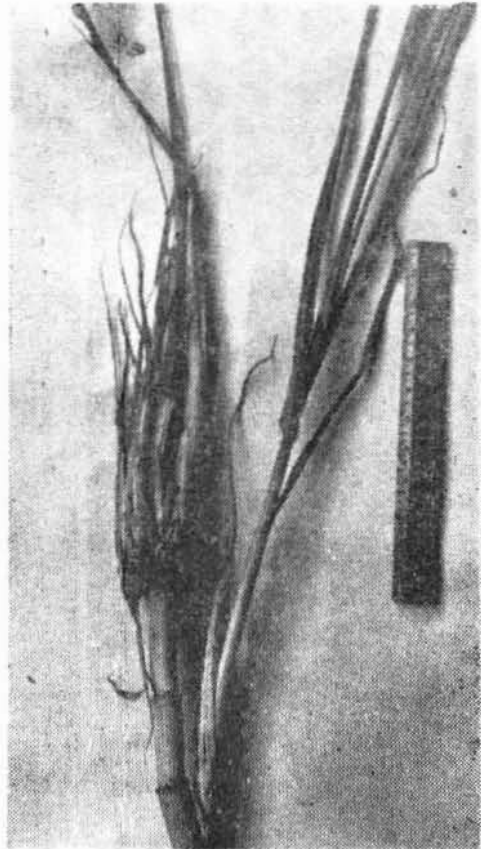
四、防除法 病徴がわかつてないので適確な防除の方法はない
 が少くとも次の事を行えば相当の効果があると思われる。
 △本病の発生した畑から苗をとらないこと。
 △被害畑の蘆荖や葉を移動することは伝播の危険を伴うから葉
 は焼却すると良い。搾り粕もな
 るべく早く処分するとよい。

△きびのめんが虫、きびのこぼね
 かめ虫らんか等を駆除すると病
 毒の伝染を防ぐと思われる。
 △同様の病徴をダンチクで見た人
 が居るので甘藷類の野生植物
 で圃場近くにあるものは除去し
 た方がよい。

(編 後 一)



病徴 其二(B)



病徴 其二(A)

米の偏食をなくするため

この頃の沖縄は戦前以上に食生活の内容が豊かになつたとい
 う言葉を聞く度に、婦人の食生活に対する知識の向上のほどが
 うかがえて嬉しく感じることがあります。市場に出る野菜の種
 類も多くなり、又色々の料理の本や、講習会を通して、婦人達
 がよりよい生活を目指して日日の精進の為だと思ひます。しか
 し、こゝで気をゆるめてはなりません。なお一層の前進のため
 に私達の食習慣を度々反省して又栄養改善に積極的に努力する
 事は、子供や子孫の体位の改善につながり、毎日の仕事の能率
 や、私達自身の健康に直接関連のある事を忘れてはならないと
 思ひます。明日の栄養改善のために毎日の食事について想ひ出
 してみましよう。

私達の食事の中で習慣的に偏食しているものはないで
 しょうか。

生活が安定して来ると、だんだん毎食毎食に白い御飯を食べ
 るようになってきました。沖縄では自給自足が出来ませんので
 外国から米を輸入して仰つている状態です。毎食、米を一台つ
 つ食べるようになりますと三食では三台になり、重さでは四五〇
 グラム食べる事になります。私達の一日必要な熱量の三分の
 二を米で仰い、一日必要な蛋白質量の三分の一を米の蛋白質
 で仰つていることになり、専ら米に頼つている事になります。
 しかし、米には充分なビタミンと無機質に欠けていて、是非他
 の食品を充分に取らねばなりません。先に沖縄に見えました、
 東北大学の辻藤正二博士は食習慣と長寿との関係について、長
 年研究していらつしやる方ですが、この研究結果から、東北地
 方の米の主産地は長寿者が少く、秋田県は日本全国で脳溢血の
 多い所であり、最も長寿者の少い所である事がわかりました。
 そして反対に、米の少ししか取れない高根、鳥取、高知、徳島
 県が日本でも最も長寿者の多い所となつております。これをそ